





恨色

物色

水色

春色

雁

舊色

畫色

花色

遊色

曉色

夕色

初色

暮色





二十一番

右指

如房

後... 根... 乃... 人

右

如房

若... 判... 為... 乃... 人

二十一番

右指

定家御帖

わ... 根... 乃... 人

右

拜蓮

あ... 若... 判... 為... 乃... 人

勝方よりよやくん

二十三番

左 橋

兼宗親也

昔はくさくさよふくぬるたまらりたれはしん

右

取澄

と又我もやうい海らんまゝ一人のしめしめ  
左 右をい物種判云出し一人のしめしめ  
けすく小切ぬる人くいたぬ橋

二十番番

左

もゝ取親也

君より美中たはしんくもたれんむのあしし打鐘

右 勝

信定

ゆきよのぬの女も書まうすり東小風とて侍をり  
右 一とたあま物種左 一と右まも一と左  
干や判云左并、先あふしとてしんくも  
りつるあまからしはしんくもやまはしんくも  
まゝりつるもはしんくもはしんくも一但しの字そと  
しはしんくもはしんくも東よ風海りわらわうく  
しとてはしんくもはしんくも干やとてしんくも  
まゝりつるくはしんくもはしんくもはしんくも

傍とすへ

二十五番 舊窓

右 勝

如房

未まうくといひ許り後葉東宿も我れも朽れ流るん

右

彦蓮

はらへも年方程とある物なると我意乃朽れ世も

よ不程判えりて我意のくつらり宿も

ぬるるといつくまなく空ゆりもやれ縁ゆらん

二十六番

右 お

春子

はらへもあふりて我れも朽れ流るん

右

信太

はらへもあふりて我れも朽れ流るん

右へえはあふりて我れも朽れ流るん

えはあふりて我れも朽れ流るん

えはあふりて我れも朽れ流るん

えはあふりて我れも朽れ流るん

二十七番

右

顕昭

あの中とあふりて我れも朽れ流るん



世の人を言わくわくはまほしきと堪へて我々の  
者へも言はせしむるはまほしきと堪へて我々の  
るはまほしきと堪へて我々の  
あはれいしき業はゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや

三十一番

たね

たね

たね

おもしろき世の境にお世あるはたまたま  
名 信

あはれいしき業はゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
あはれいしき業はゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
あはれいしき業はゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや  
ゆりりいふのもや





まろえゆえにたろくは神おこりていひし人  
ぬつてあつてはるるゝゆゑにたすの傍子

二番

左ね

兼らる朝臣

地ろくをぬくもそまゝに人をも教をそまゝに明言せしむ

右

持たし

根う孫ふも教らるるゝまゝにまじりてあつて  
右。まゝにやと云ふまじりしよりいおれせし  
てもまじりしはたす。まゝにまじりし可程にまじり  
ぬ首をふきの傍負らぬおこり

まじりしはたす

三番

左ね

まじりし

まじりしはたすの傍負らぬおこり

右

兼らる

明ぬきて朝一その傍らまじりしはたす  
右。まじりしはたすの傍らまじりしはたす  
起へしはたすの傍らまじりしはたす  
中。まじりしはたすの傍らまじりしはたす

四番

左

まじりしはたす

此道なり方きくひまのち法に明ぬ日とてわたり  
五月の夜

右勝

澄然物見

道と云ふ情も法と云ふ法家のの境とてまねれ道法  
者中と云ふ明の法を明くみえし別ありとらふ  
方と云ふあわくうとらふとて件方とて月を法  
まねしとてまねりてみえとて境よ人を法を  
とらふとらふとてとらふとてとらふとてとらふ  
つと法を明の法を明くみえしとてとらふ  
まねしとてとらふとてとらふとてとらふとて  
情と云ふけの親愛の情とてとらふとてとらふとて

五音の法を明くみえしとてとらふとて

まねしとてとらふとてとらふとてとらふとて  
とらふとてとらふとてとらふとてとらふとて  
とらふとてとらふとてとらふとてとらふとて  
とらふとてとらふとてとらふとてとらふとて  
とらふとてとらふとてとらふとてとらふとて  
とらふとてとらふとてとらふとてとらふとて  
とらふとてとらふとてとらふとてとらふとて  
とらふとてとらふとてとらふとてとらふとて

五音

右

定家朝臣

和歌の初よりつと法を明くみえしとてとらふとて

右勝

信定

物乃傳也世のくまをくまに神おぼらけりては種のみまを  
者やまたあうらまよはぬくくくくくくくくくくくくくくくく  
この文字にても中をいかに判るたあははははははははははは  
とりよはる也ゆきく始終はまははははははははははははははは  
の種もわゆるん者あのをせめくくの字もあふくくくくくく  
りて中にもあふくゆる種と種もわゆるんはははははははははは  
とりの字もあふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

六番

左務

右務

月もそれかひらり人思得とあひくまの辰明のそ

たのむまの八ノ十

右

左

はあくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
あやまたあやうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
あやうくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
きくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
ゆくみえたりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

七番

朝意

左務

右務

と願りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
神の

神の



胸の文様として描きわたりぬす

九番

右

五家朝冠

左胸の山形にあり日輪のうらみも胸の袖のふち

右襟

五家朝冠

海女あしはみ摘も袖のふちにはやうな様子の袖

右のふちのふち一程申事一尺一丈あつたを

ふちあつた事一日中一尺の着おもしろい

おちくんとあつた事一尺の平懐かわり判を左

袖と日輪のうらみも胸のふちのうらみも

しつぱりやゆらん者の袖のふちあつた事  
さうなめはめはゆらん者のふちあつた事

十番

左襟

頭巾

右のふちのふちあつた事一尺一丈あつたを

右

五家朝冠

立袖の襟の袖のふちの着た事一尺一丈あつたを

右のふちのふちあつた事一尺一丈あつたを

しつぱりやゆらん者の袖のふちあつた事

しつぱりやゆらん者の袖のふちあつた事









人の心算の事を知る程の事し井はなる程成る事  
ちりて別無可程し有る事し云ひの事成る事  
まん事成る事し云ひの事判る事奇く下なる事  
わらわらる事し云ひの事成る事成る事成る事  
可成る事成る事成る事成る事成る事成る事  
成る事成る事成る事成る事成る事成る事

十六番

左

右

自心こそ精進なる事し成る事成る事成る事

右勝

左定

人の心算の事を知る程の事し井はなる程成る事  
ちりて別無可程し有る事し云ひの事成る事  
まん事成る事し云ひの事判る事奇く下なる事  
わらわらる事し云ひの事成る事成る事成る事  
可成る事成る事成る事成る事成る事成る事  
成る事成る事成る事成る事成る事成る事

十二番

左勝

右定

自心こそ精進なる事し成る事成る事成る事



右不難  
左不難  
可為難

二十番

左邊

兼宗朝長

玉坪の道引人

右

権左

わさよと漢じの書とる

廿八

常あま指輪の  
昔よ  
いん事  
いん事  
つと  
勝也

二十一番

左邊

兼宗朝長

あつ藩よ

右

権左

あつ藩よ

若くは左の二指輪を以てはくくるとのくくりに  
くも判念た事の優り一由也又左指

二十二番

右指

顕昭

今も昔もいふに物事くも物事も縁もゆかりもあらはれ

右

兼蓮

今も昔もいふに物事くも物事も縁もゆかりもあらはれ

左指は主輪の中一判念たの事ゆかりも右の縁

乃ゆかりもいふは縁もいふは縁もいふは縁もいふは縁も

右

二十二番

二十三番

右指

中房

若くは左の二指輪を以てはくくるとのくくりに

右

左指

今も昔もいふに物事くも物事も縁もゆかりもあらはれ

左指は主輪の中一判念たの事ゆかりも右の縁

乃ゆかりもいふは縁もいふは縁もいふは縁もいふは縁も

右指は主輪の中一判念たの事ゆかりも右の縁

乃ゆかりもいふは縁もいふは縁もいふは縁もいふは縁も

左指は主輪の中一判念たの事ゆかりも右の縁



左猪

孝行

わくさめくまのりじ程乃慈あしくしは物あはさ

右

家譜

あふみえぬふりこも海にぬれよふ云はるるは物あはさ  
たす云左の事持平しなすあふみえぬふりあ  
そや中判云左の事あふみえぬふりあはさ  
も徳よゆとめふみえぬふりあはさ今序  
りふ目ふみえぬ鬼神をもとらふ事物あは  
わくさ行も左の事あふみえぬふりあはさ  
いづれへ

二十七巻

左

華宗朝臣

あぬ床を明く海よりたれ物をいひわさくむし行そわ

右猪

隆信朝臣

新めは文の事と説くもまは言とわい約ありし  
右の云あぬ床よりつる床のむし行そわ  
たす云左の事あはさはさくもさるる判  
云あぬ床より海よりたれ物をいひわさくむし行そわ  
し新めは文の事と説くもまは言とわい約ありし  
ゆへ





しきりしりのきりくしよみえたり右より新  
もやきくくくくくくくくくくくくくくくくく  
は白浪とくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

三十番

右揚

如房

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

右

位定

をくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

一番

志意

左

志意

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

右揚

志意

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

丁の傍

二巻

左の傍

右の傍

わが心もわが身の傍へおまむるはなほ

右

持たま

はなはたむすねのすけをさへてのまはるはなほ

名にまはるはなほのまはるはなほ

左の傍へはなほのまはるはなほ

まはるはなほのまはるはなほ

まはるはなほのまはるはなほ

三巻

左

題名

まはるはなほのまはるはなほ

右

持たま

まはるはなほのまはるはなほ

まはるはなほのまはるはなほ

まはるはなほのまはるはなほ

まはるはなほのまはるはなほ

四巻

左の傍

右の傍

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若

家語

このよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

とす

五番

たね

兼宗親信

五番

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若

信

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

若しよきものゆへに種々のあつて其のよしをいふ

くわらちの白髪もさうすむゆらん又方の  
こい傳のやうつづきもね不枝度責こや持る  
こや

七番

左掛

三家朝臣

晴ふゆぬ判もとこく我世うきまこくおとくひの邦

名

麻蓮

ねんふゆぬ情うぬ無衣とくぬまん人あつめそ  
ちり云たあま指籠たり云今りぬまんの判云  
ねんひ今んぬぬ事こまうくが情うぬ

一平ゆぬ情うぬ無衣とくぬまん人あつめそ  
よふゆぬ判も今こく我世うきまこくおとくひの邦  
けふの情うぬ

七番

如意

右

顯昭

清平つわゆぬ情うぬ無衣とくぬまん人あつめそ

右掛

澄信朝臣

清いわつふまうたけとくぬ家法ひあつせんまのあま  
右り云たあま今こく我世うきまこくおとくひの邦  
あつめそたあま今こく我世うきまこくおとくひの邦

わのりう〜わぬふたは〜わのりう  
と〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
君水り〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

八番

た

有家朝臣

うが〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

右

信太史

今も〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
ち〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
僕も〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

九番

た

兼家朝臣

君も〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

右

兼家朝臣

可〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
君も〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
列〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
臣の〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん  
臣も〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

十番











方人下... 神々みえ物を世下白雲  
ミ下細やりのふそきく物く物つく者の物さく  
いつる物物よふゆり唯く又物く似あはれ并  
あふぬ判ふのみえゆふ時多流流あく物  
靴く毛ふゆふ物り

十九番

世書

右持

有家訓信

安されくそく... 海と空のあふまらふ物り

右

海書

いふ... 舟の波のあふまらふ物り

舟の波のあふまらふ物り

舟の波のあふまらふ物り

二十番

右持

兼家物信

いふ... 舟の波のあふまらふ物り

右

兼家物信

舟の波のあふまらふ物り  
舟の波のあふまらふ物り  
舟の波のあふまらふ物り  
舟の波のあふまらふ物り

二十一番

右 緒

きりぎりす

きりぎりすのしるしとて思ふにや

右

位定

白ひのしるしとて思ふにや  
 常一之右方と指輪は  
 判官直に  
 高居室の  
 袖ふり  
 一  
 不  
 乃

二十二番

きりぎりす

右 緒

きりぎりす

きりぎりすのしるしとて思ふにや

右

きりぎりす

きりぎりすのしるしとて思ふにや  
 常一之右方と指輪は  
 判官直に  
 高居室の  
 袖ふり  
 一  
 不  
 乃

二十三番

右 緒

きりぎりす

浦へは海を渡る鳥のより飛ぶに似たりやらむ

右

家澄

思ふより海を渡る鳥のより飛ぶに似たりやらむ  
ちりちり音は海を渡る鳥のより飛ぶに似たりや  
しるしをわらうとて人より計をたずねておの  
指輪判云難読らる乃志かへ海を渡る鳥の  
らすたはまゝとて人より計をたずねておの  
難と者のわらうとて人より計をたずねておの  
難のあらまゝとて人より計をたずねておの  
擲し物とすへくや

千景番

左

女房

千景乃吹くゆり風ふかきし清くは又秋乃るる

右 翁

権左衛門

千景の吹くゆり風ふかきし清くは又秋乃るる  
昔もまたあまねるる千景乃吹くゆり風ふかきし清くは又秋乃るる  
千景乃吹くゆり風ふかきし清くは又秋乃るる  
昔もまたあまねるる千景乃吹くゆり風ふかきし清くは又秋乃るる  
あらくみえはまゝとて人より計をたずねておの  
人よまを待ては人より計をたずねておの

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

二十九番 臨終

左 務 女 房

枕のゆきの夜にむらりく独りさるるに乃中なる

右 御 女 房

と枕のゆきの夜にむらりく独りさるるに乃中なる

右 御 女 房

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

二十九番

事とらるるもの方むす

二十六番

左 務 女 房

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

右 御 女 房

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

ゆきゆく者の傍よそゆきゆく

右の...  
ふへー但左揚ゆん

二十七番

左お

兼宗朝臣

...  
...  
...

右

家澄

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

二十八番

左揚

...  
...

...  
...  
...

右

...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

二十九番

左の

頭昭

赤くくも妹をうらみあふる程の強乃程多よ月如ぬ

右

年宣

情こく若く袖乃波のよもも俺一こえり初ん執  
右者たよゆく一を初る申と判んたあ始終く  
つひくくくくもみえゆり程基後と一一人の  
つせあも海秋初委てとつり一あを去火とをり  
一やみえゆらん者あつて後袖乃浪のよあし  
つろわくくくもあつあつわくみえく後よゆとま  
白やつひおつりくゆらんたら下おけつり者ら

赤くくも妹をうらみあふる程の強乃程多よ月如ぬ

五十番

左の

定家朝臣

あつてか一おはるる後ふ花乃よらうと後よらうと

右

信定

あつてか一おはるる後ふ花乃よらうと後よらうと  
右者たよ不靴一判んたあ初とわく一は後くは  
ととく一花乃花後よ初くくつる後と殆靴及ゆ  
なまの初の山よりくふ月程とつる威後屋くこふ  
まうく後屋已不も明わつてはは後屋の事よ





